

山口放送

事業の名称

優しいテレビを考える～外国人の目線に立ったメディア～

共同で事業を実施した団体

国立大学法人山口大学、山口市立平川小学校

事業概要

山口県で暮らす外国人と小学生がともに、山口放送が放送するニュース番組、天気予報等を視聴し、外国人にとってどこがわかりにくいかに議論することで、外国人にとって「優しいテレビ」にするにはどうすればよいか考えた。外国人は自分ごととして、小学生は外国人の立場に立って、意見を交わしてもらうことを目指した。

【活動の参加者】

- ◆山口大学留学生（日系ブラジル人）1名、山口市国際交流員（スペイン人）1名
 - ◆山口市立平川小学校6年生7名
- 以上の9名が、A班、B班2つの班に分かれ、意見交換を行った。

【具体的な活動内容】

日時：2025年3月24日午後1時～5時

場所：山口大学事務局2号館4階第2会議室

まず山口放送から今回の取り組みについて説明し、①台風に関するニュース、②天気予報、③イベント情報——の3本の映像を見てもらった。

①と②は参加者が居住する山口市も河川の増水などの影響を受けた台風や豪雨の話題を、③はイベントの開催日や内容について紹介する映像を用意。テロップやアナウンサーのナレーション等は放送当時のまま手を加えず、視聴してもらった。



続いて、班に分かれて自由に意見交換を行った。外国人1名に対し、小学生が3名から4名で一人ひとりが発言しやすいよう少人数で行うこととし、山口放送のアナウンサーや気象予報士、制作スタッフも加わった。それぞれの班にはノートパソコンを

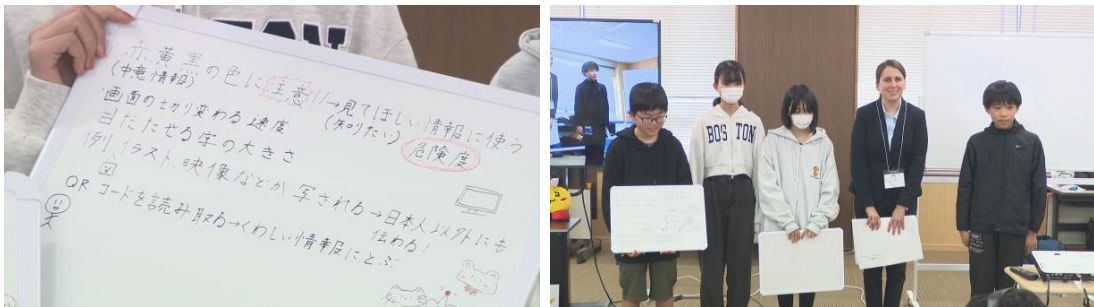
用意し、映像を見ながら意見交換を行った。



それぞれから出た意見を集約し、班ごとに発表してもらった。字幕の修正案を具体的にイラストで示した班もあり、発表後には互いの班に対し質問も出た。

<意見の一部>

- ・ 外国人にもわかるようなイラストを増やす。
- ・ 画面の切り替わる速さをゆっくりにする。
- ・ アナウンサーの語りを会話調にする。
- ・ 漢字にふりがなを振った方が良い。
- ・ 何の話をしているのかわかるようにナレーションのタイミングに合わせ該当部分の色を変えたり音をつけたりする。



最後に、出た意見に対し、山口放送のスタッフが見解を述べる時間をとった。例えば、「災害の情報を伝える際、アナウンサーの語りをYoutuber風に会話調にすることで、外国人にも親しみやすくなるのでは」という意見に対しては、アナウンサーが実践してみる場面もあった。YouTubeなどの動画配信サイトとわれわれの放送業務は全く別物ではあるものの、日頃の放送では、声の抑揚や強弱をつけて伝えていることや、注目すべき点は繰り返し伝えていることなど、心がけていることを示した。



事業の成果

山口県内の在留外国人の数は年々増加しており、2024年6月末時点で2万人を超えている（法務省出入国在留管理庁）。慣れない土地で暮らす外国籍の方たちにとって生活情報や防災情報を得るためのツールとして果たしてテレビは選ばれているのか。また、届けたい情報がきちんと届く、「優しいテレビ」とは何かをさまざまな立場の人が一緒に考える場を作りたいという思いからこの取り組みは始まった。参加する子どもたちが多文化への関心や思いやりの心を持つ一つのきっかけになればとの思いも抱きながら取り組んだ。意見交換の際には、子どもたちが外国人の出身国と日本とのニュースや気象情報との違いを尋ねるなど、積極的にコミュニケーションを図り、相手の文化を知ろうとする姿が見られた。

「自分たちにとって当たり前が、当たり前じゃないことが一番の学びになった」

参加してくれた児童のこの言葉こそ、「優しいテレビ」とは何かを考えるうえで最も大切なことではないか、とわれわれ自身も気づかされた。

外国人と子どもたちの意見交換の様子は、当社のニュース番組内で特集として放送し、当日の参加者以外の方にも発信した。

- ・ 2025年4月9日午後5時半ごろ『KRY ニュース every』の「らいふ」コーナー
- ・ 2025年4月11日午前6時半ごろ『KRY さわやかモーニング』内

各班の話し合いの過程、出た意見、発表の様子を6分30秒程度のVTRにまとめ、紹介した。スタジオ前振り部分ではアナウンサーが取り組みの経緯や狙いについて説明し、VTR後は子どもたちや外国人から出た意見について、感想を述べるなどした。



【子どもたちの感想】

- ・ 普段関わらない外国人と関わって楽しかった。
- ・ 話し合う時間が一番楽しかった。
- ・ 外国人の目線に立ってテレビを見るということが初めてで楽しかった。
- ・ 自分では当たり前だと思っていたことが外国の人にとっては難しいのだと気づき驚いた。
- ・ 今後テレビの見方が変わってくると思う。
- ・ ほかの班の意見を聞いてそういう見方もあると思って楽しかった。

【外国人の感想】

- 日本のニュースは表現がかたいので少し柔らかい語りにもしてもらえると印象が変わるのではないか。
- 子どもたちは自分が気づかないところに気づいてくれたりして面白いと感じた。いろいろな見方があるのだと思った。
- この企画について聞いたとき、うれしかった。
- 動くイラストなど子どもたちらしいアイデアが出て感心した。
- それぞれの国のテレビの違いについて話し合うのも楽しかった。
- 日本と外国と、両方の目線が入った番組ができればいいのと思う。

以 上